

CISSP[®] REPORT



CISSP[®] 取得推進企業インタビュー

ビジネス拡大に向け「セキュリティ匠の会」を立ち上げ CISSPホルダーを増やして顧客のセキュリティ要望に対応

取材年月 2017年11月

ネットワンシステムズ株式会社

ICT基盤のインテグレータであるネットワンシステムズ株式会社。ビジネス拡大のため、「セキュリティ匠の会」を立ち上げました。セキュリティに精通した社員“セキュリティの匠”が集い、匠同志の交流を通して相互啓発し、スキルアップを図るもの。具体的な活動の1つがCISSP資格取得の支援です。ビジネス推進本部 応用技術部 セキュリティチーム シニアエキスパートの栗田晴彦氏と同チームの上原健司氏にCISSPの価値について聞きました。

Q. ネットワンシステムズの概要について教えてください。

栗田 ネットワンシステムズは独立系のインテグレータです。1988年の創業以来、一貫してネットワーク基盤の設計・構築・運用に強みを持ち、セキュリティとクラウドを融合させたICTプラットフォーム全体の設計・構築・運用を手がけています。

Q. セキュリティ関連のビジネスにも力を入れていると聞きました。

栗田 社内では「Security Everywhere」「Security Everyone」という言葉をよく使っていますが、当社のビジネスにおいてセキュリティを必要としない仕事はほとんどありません。ネットワンシステムズではセキュリティ専門のスタッフだけでなく、事業部門やビジネス推進部門のスタッフもセキュリティに関連するビジネスを行っています。

そこで重要となるのが、セキュリティの知識を備えた人材の育成です。そのための施策の1つとして、2016年



ビジネス推進本部 応用技術部 セキュリティチーム
シニアエキスパート

栗田 晴彦氏

経験豊富なセキュリティの匠の第一人者として、セキュリティコンサルティングを行いながら、社内セキュリティ人材育成や、NetOne-CSIRTの運営アドバイス、R&D的な立場でソリューション、サービスの技術的な側面の支援なども行う。日本に2人しかいないCCSP資格所有者の1人。

10月に「セキュリティ匠の会」を立ち上げました。それによって、「セキュリティのことならネットワンシステムズに任せろ」といわれるようになることを目指しています。

流行り廃りのない CISSP 資格取得を支援

Q. セキュリティ匠の会ではどのような活動を行っているのでしょうか。

栗田 例えば、社員のスキルアップを図るために重要となる活動の1つとして CISSP 資格取得の支援があります。定期的に勉強会を開いているのですが、その最終的な目標として CISSP 資格の取得を掲げています。CISSP はベンダー資格のような流行り廃りがなく、将来的にもずっとその価値が保たれるものと考えているからです。

CISSP はかなり勉強しないと取れない資格のため、勉強会に参加する社員のやる気を向上させることができますし、勉強の過程で多くの知識を得ることもできます。そして、CISSP 資格を取得すれば、社員自身がスキルアップを実感できるだけでなく、会社としても有資格者が増えたことでビジネスに大きなインパクトを与えることができます。

CISSP 資格を取得できた社員には、クラウドに関する高度な知識が必要となる CCSP 資格取得の支援も行っています。残念ながら日本には私を含めてまだ2人しか CCSP 資格取得者がいませんが、3人目を当社から生み出したいと思っています。

Q. そのほかにはどんな活動を行っているのでしょうか。

コミュニティづくりもセキュリティ匠の会の狙いの1つです。コミュニティの中で相互に啓発しながら教え合うことによってスキルアップが図れると考えるからです。社内で培ったノウハウを共有するため、様々な部署の現場で



ビジネス推進本部 応用技術部 セキュリティチーム
上原 健司氏

セキュリティの匠としてセキュリティに関する人材教育などを行う。CISSP 資格取得者であり、最近ではセキュリティの知見を求める社員から声を掛けられるようになって仕事の幅が広がっている。

セキュリティ業務に携わる人（セキュリティの匠）たちを緩やかに束ねたコミュニティをつくり、その中でさらにお互いのスキルを高めていくこともセキュリティ匠の会の役割の1つと考えています。

「セキュリティ匠の会」の概要

- 目的 ネットワンシステムズグループ社内のセキュリティの「匠」達のコミュニティ形成を通じ、ノウハウやスキルの共有 / 蓄積と社内への展開を行い、ネットワンシステムズグループのセキュリティビジネス拡大の人的基盤構築に大きく貢献する
- 主な活動
 - 定例の総会（4半期に一度を想定）
 - ・ベンダーや特定の技術に偏らない
 - ・ユーザ事例紹介
 - ・業界団体や海外講師も
 - CISSP/CCSP 資格取得支援
 - セキュリティ事例共有会
 - サイバーセキュリティコンテスト
 - コミュニケーション基盤：Yammer/Jive
 - 情報発信（セキュリティニュース速報（社内向け）やセキュリティコラム（社外向け）など）
- 対象 社内 / グループ内各部門のセキュリティ技術者「匠」

CISSPホルダー100人を目指すプロジェクト

Q.CISSP 資格取得を支援するプロジェクトもあるそうですね。

上原 「The Hundred CISSP」というプロジェクトがあります。このプロジェクト名には CISSP 資格取得者を 100 人にまで増やし、セキュリティビジネスを加速させるという意味が込められています。2017 年 11 月現在で、当社には 25 人の CISSP ホルダーがいますが、なるべく早く 100 人にまで増やしたいと思っています。

栗田 2016 年 10 月にセキュリティ匠の会がスタートし、同年 10 月から 2017 年 3 月にかけて第一弾の「CBK (Common Body of Knowledge : 共通知識分野) 勉強会」を開催しました。その第一弾では私がリード役を務めました。第二弾、第三弾の CBK 勉強会のリード役は、その第一弾の参加者でいち早く CISSP 資格の取得を成し遂げた上原が引き継いでいます。これは「トレイン・ザ・トレーナー」という人材育成方法の 1 つで、トレーナー (指導者) をトレイン (養成) することによって技能の伝承を行い、より多くの人にその技能を広めていくためのものです。

上原 CBK 勉強会は 8 回に分けて行われます。CISSP のドメイン (領域) は 8 つあるので、ドメインごとに CISSP 資格取得挑戦者である参加者から講師を決め、発表会形式で勉強を進めます。参加者たちがお互いに質問し合い、知見を高めていくのです。さらに補修講義を 3 回ほど行います。参加者は約半年間の勉強期間を経て試験に臨みますが、一回で合格できるように皆、必死で勉強しますね。

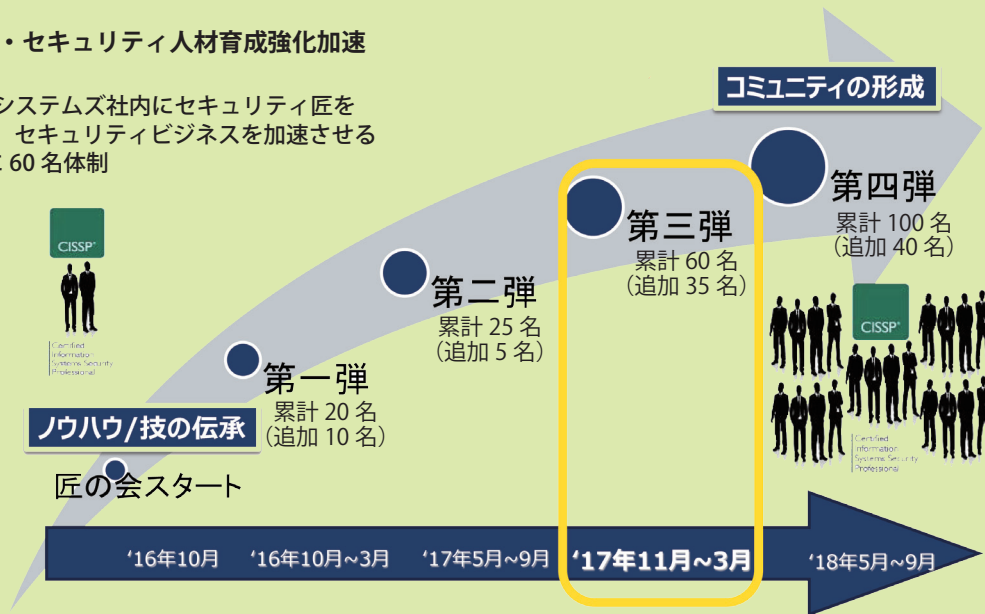
栗田 参加者が持ち回りで講師を務めることには大きなメリットがあります。CISSP 資格の未取得者が発表を行うので拙い部分はありますが、参加者同士が質問し合い、教え合うことで得られる効果は大きく、合格率はプロが講師を務めるオフィシャルセミナーを受けた場合とそれほど変わらないのではないでしょうか。

上原 リード役を務める私も数多くの質問を受けますし、参加者たちは CBK 勉強会の時だけでなく業務の合間や業務後にもお互いに質問し合い、教え合っています。それによって知見が高まり、CISSP が求めるセキュリティプロフェッショナルすなわちセキュリティの匠としての知識を十分に備えた状態で試験に望めるのです。

CISSP 取得支援 : The Hundred CISSP

情報発信・セキュリティ人材育成強化加速

目的：ネットワークシステムズ社内にセキュリティ匠を 100 名作り、セキュリティビジネスを加速させる
目標：FY17 下期に 60 名体制



CISSP は技術とマネジメントのバランスが取れた資格

Q. 社員が CISSP 資格を取得することで、得られた効果はありますか。

栗田 セキュリティの専門部隊だけでなく、全社的に「セキュリティに力を入れて行こう」という機運が生まれてい

るのは効果の 1 つと言えるでしょう。

勉強した翌日に効果が現れるようなものは本当の教育ではないと思います。本当の教育とは時間を掛けてじわじわと効果が現れてくるものであり、私たちが行っているのはそ

ういう人材育成なのです。

上原 私は個人的に感じている効果があります。CISSP 資格を取得する前は、例えばセキュリティガイドラインを作成する際、社内でセキュリティの匠の第一人者として認知されている栗田に相談する人はいても、私に声が掛かることはありませんでした。ところが **CISSP 資格を取得してからは、私のセキュリティの知見を求めて人が声を掛けてくるようになったのです。** そのため、仕事の幅が広がりました。

栗田 なるほど。上原だけでなく、そういう人材が社内が増えてきたのは確かなので、それも CISSP 資格取得の効果とっていいでしょう。

Q. 今後の CISSP 資格取得の支援についてどうお考えですか。

上原 まずは前述したようになるべく早く CISSP ホルダーを 100 人まで増やしたいですね。実際に CISSP ホルダーが 100 人になれば、ネットワークシステムズのビジネスモデルが少し変わるのではないかと考えています。現在、当社のセキュリティビジネスはプロダクトを中心に進めていますが、CISSP ホルダーが 100 人になれば、セキュリティの上流サービスやさらなる専門サービスの展開を図れるため、ビジネスの幅が増えるのではないと思うからです。

栗田 ビジネスの現場でセキュリティに関して核となる人材を増やしていきたいですね。すでにプロダクトマネジメント部門や営業部門、サポート部門などではそういった若手社員が重要な役割を担い、先輩社員に刺激を与えていま

す。CISSP 資格を取得した社員が増えることで、会社全体にセキュリティに関するスキルやノウハウが伝わっていくようにしたいです。

Q. 今後のビジネスの展望についてお聞かせください。

栗田 多くの企業で IT のクラウド化が進んでいます。ただ、先ほど「Security Everywhere」と言ったように、クラウドにしてもオンプレミスにしてもセキュリティは必ず必要とされるものですし、お客様もそれをよく理解しています。**私たちはお客様の要望に応えられるセキュリティソリューションを提供し続けていきたいと考えていますし、それを行っていかないとビジネスが立ち行かなくなるという危機感を持って取り組んでいます。**

上原 セキュリティの知見を備えてクラウドの運用管理ができる人、そしてそれをきちんと説明できる人が今、求められています。そういった人の価値が上がっていくので、セキュリティの知見を備えた人材を育てていくことを継続していきたいと思います。

栗田 IT セキュリティを企業の戦略や業務と連携させて調和を取っていくための能力も強く求められています。私たちのように IT インフラを提供する立場としては当然、お客様のビジネスの全体像が見えた上でセキュリティを考える必要があります。技術とマネジメントのバランスが取れた CISSP は、それを可能にする資格として最もふさわしいといえるでしょう。

CISSP 資格取得支援活動内容

■ CBK 勉強会

テーマ毎 (8 ドメイン)
支援メンバーは、勉強会運営 / アドバイザ中心
「講師」は、挑戦者が持ち回り

■ ツールやノウハウの提供 / 共有

力試し問題など
CBK 説明資料

■ CISSP 試験受験対策 (受験案内など)

申込み方法、エンドースメントなど
キックオフにて一部提供

■ そして、挑戦者のやる気向上!

合格体験談
目標を共にする仲間
親身の指導

学ぶは人に教えるなり

